住民の意向を考慮した世田谷区内の河川整備のあり方

国士舘大学工学部　正会員　北川　善廣　　世田谷区土木事業担当部　正会員　山口　浩三
世田谷区土木計画課　正会員○吉武　成寛　　世田谷区土木計画課　非会員　谷亀　緑郎

１．はじめに　河川は地域住民にとって最も身近な憩い空間である。1990 年以降、都市部では河川環境に配慮した整備を求める要望が年々高まってきているが、依然としてそのほとんどは地域特性や住民の意向を十分反映させているとは言い難い。本報では、世田谷区内の二つの小河川を対象に実施した周辺住民に対する意識調査から河川の利用状況、印象、関心内容などを明らかにし、年齢、来訪頻度などの利用者の属性と整備要望の関係を河川別および河川区間別に分析した結果から、地域や住民の意向に応じた河川整備の方向性について検討した結果を述べる。

２．対象河川の概要[1)、2)] 対象河川は、一級河川多摩川水系の谷沢川と丸子川である(**図 1**)。谷沢川は世田谷区桜ヶ丘に源を発し、世田谷区南部の住宅地を流下し、多摩川左岸に合流する。東名高速用賀付近までの上流部はほとんどが暗渠化され、下流部は開渠になっている。流域には、上流部に馬事公苑、砧公園などが存在し、下流部には国分寺崖線に切れ込んで浸食して形成された等々力渓谷があり、渓谷では自然林が豊富で、随所に湧水箇所が見られる。丸子川は江戸時代の水利事業で開削された総延長 23.5km の六郷用水であるが、その後廃止されて一部は道路となり、仙川との分断地点から丸子橋上流までを丸子川と称するようになった。さらに、平成元年度に丸子川は谷沢川との合流点を境に分断され、上流部は谷沢川に付け替えられた。谷沢川との合流点から上流部は大蔵三丁目付近の湧水を水源とし、岡本三丁目で谷戸川と合流し、さらに南東に流下して玉堤二丁目で谷沢川と合流している。谷沢川との合流地点から下流部は、ポンプアップした谷沢川の水を新たな水源として流下し、大田区田園調布一丁目で多摩川左岸に合流する。

３．調査概要　**図 1** に示した谷沢川、谷戸川および丸子川の各区間の歩行者に対して、平成 17 年 11 月 3 日～5 日にアンケート調査を行った。

3.1 調査内容　自宅から河川までの所要時間、川の認知度、利用の目的と頻度、印象、改善項目等である。回答者数は 570 件であった。谷沢川 258(男性 45%、女性 55%)、谷戸川 128（男性 38%、女性 62%）、丸子川 184(男性 47%、女性 53%)と全体に女性がやや多いが極端な偏りはなかった。自宅から川までの所要時間は、全体では徒歩 5 分以内が約 40%、10 分以内が 57%、30 分以内が 78%とほぼ徒歩圏内であり、河川別では顕著な違いは見られなかった。

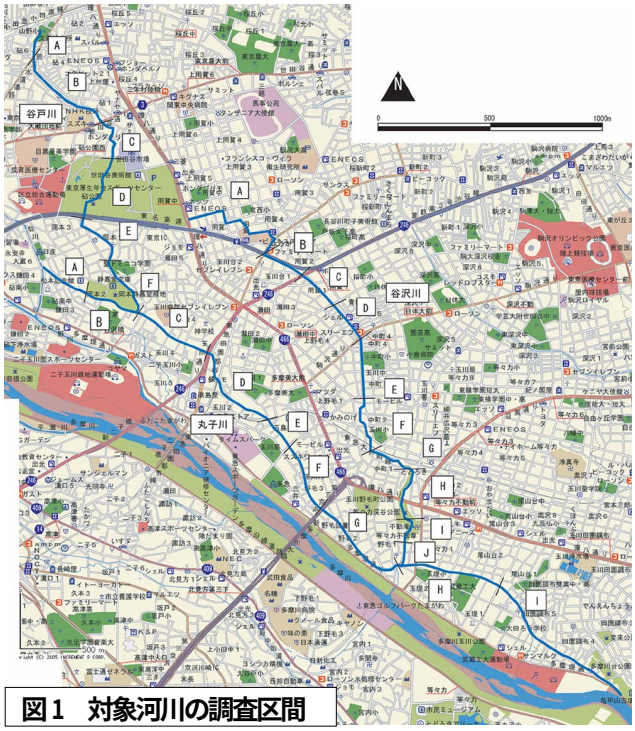

図１　対象河川の調査区間

3.2 川の認知度　「川の名前を知っていたか」との質問に対して「はい」と回答したのは丸子川 83%、谷沢川 67%、谷戸川 34%となり、谷戸川の認知度が極端に低かった。

3.3 利用状況　各河川とも、「ほぼ毎日」の利用頻度で中年層の「通勤･通学･買い物」および高年層の「散歩」が最も多く、各々最寄り駅に近い区間や公園や学校に近い区間において高い割合を示した。

４．住民の意識

4.1 川のイメージ　水の清らかさ、親水性、自然･景色などの割合について、プラスとマイナスの印象を河川ごとに分類すると、丸子川は回答者の約 70%、谷沢川は約 66%がプラスの印象であるが、谷戸川は回答者の約 65%がマイナスの印象であった。主要な 2 因子を自然･景色と親水性として作成した**図 2** によると、丸子川の A～G 区間では「親しみ易い」、「景色が

キーワード：河川整備、利用状況、住民意向、世田谷区
連絡先：〒154-8515　東京都世田谷区世田谷 4－28－1　国士舘大学工学部都市システム工学科都市河川研究室

良い」、「水がきれい」などの川として印象が良好であるが、谷沢川との合流後の H･I 区間では「水が少ない」ために印象が劣っている。谷戸川の A ～C 区間は「水が少ない」、「水が汚い」、「水辺に近づきにくい」などの川として印象が悪く、砧公園内のD区間は「親しみ易い」、「景色が良い」などの印象であるがプラスとマイナスの印象には差はなく、E･F区間では「水が少ない」、「水が汚い」などの印象である。谷沢川は等々力渓谷周辺 G、H、I 区間では「景色が良い」、「親しみ易い」、「自然が豊か」などの川として印象が良い。しかし、一部遊歩道に人工的な水路が存在する A 区間は「人工的」であるが「親しみ易い」などの印象があり、B 区間は「水が少ない」、「水が汚い」などの川として印象が良くない。

4.2 住民が望む整備内容　各河川でどのような役割を期待するかとの問い(複数回答)では、「自然環境を育む」(丸子川34%、谷戸川20%、谷沢川46%)、「日常生活の環境向上」(丸子川31%、谷戸川21%、谷沢川48%)、「水害を防ぐ」(丸子川38%、谷戸川23%、谷沢川39%)の回答があった。さらに、区間別・年齢層別の要望内容(複数回答)はいずれの河川も、第 1 位が「動植物がもっと生息できるような水辺の整備」であり、河川ごとの割合と区間は、丸子川が 26%でほぼ全区間、谷戸川が 20%で D,E 区間、谷沢川が 26%でほぼ全区間である。第 2、3 位は「桜並木、フラワーポットなど河岸の美化･整備に努める」と「川沿いに快適な歩道を整備する」であった。各河川とも整備改善の要望が年齢層に関係なく高い傾向にある。

4.3 住民参加の意思　各河川とも第 1 位は「水を汚さない、ごみを捨てないなどの生活スタイルを守る」、第 2 位が「年に何度か清掃活動に参加する」、第 3 位が「河岸に花などを植栽、管理する」である。この傾向は各河川において年齢層に関係なく共通しており、環境をより良くするための活動への参加の意思が強いことが伺える。

5．アンケート結果を踏まえた整備の方向性　ブロック毎に整備の課題や方向性について整理すると、以下のようになる(**図 3**)。

① 沿川にある学校や公園等公共施設との一体的整備
② 水辺に近づけるよう快適な水辺の移動空間整備
③ 河川の水量及び良好な水質の確保とともに自然環境の保全及び復元的な整備

今後は、上述した内容について、河川管理者である東京都と協議し、環境整備計画の策定に向けて努力していく必要がある。

6．おわりに　谷沢川および丸子川は、世田谷区内に残された貴重な水と緑の河川空間の一つであり、地域特性を考慮した貴重な生活空間として街の魅力をさらに向上させる潜在能力を有している。しかし、現状では河川本来の機能を十分発揮させているとは思われない。今後は、流域空間の現状との関係について検討するとともに、川を中心とした魅力ある街づくりのための基本計画の策定、地域住民と連携した活動のあり方などについて検討する予定である。また、世田谷区内の目黒川水系や呑川水系についても、地域、行政、大学等が連携・協働して調査検討し、川を活かした魅力ある世田谷のまちづくりに結びつけていきたい。そして、安全・快適でより住みやすい区民生活環境の実現が早い時期に訪れることを期待する。

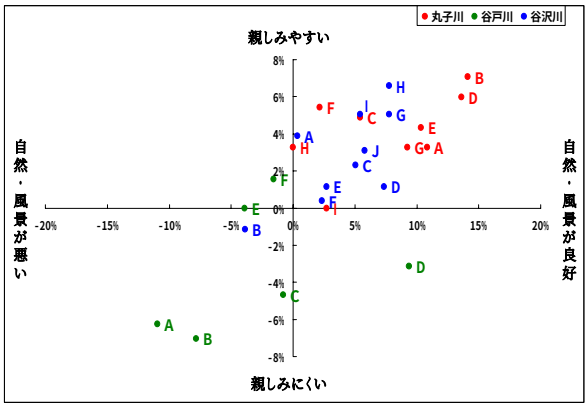

図2　自然景色と親水性

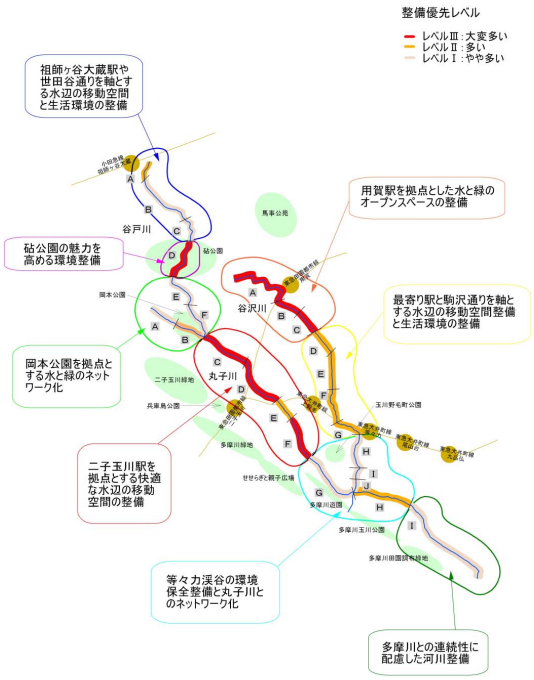

図3　ブロック別の河川整備内容

(参考文献)
1)世田谷区教育委員会：世田谷の河川と用水、昭和 52 年 12 月
2)東京都総合治水対策協議会：谷沢川、丸子川流域の総合治水対策暫定計画、平成 7 年 5 月